新私幼だより

- 平成26年度定時総会報告/理事長抱負
- 常置委員長抱負
- おやこんぼ通信&報告
- 特集『親と子どもの心を育てる幼児教育』（その2）肥後功一
- コミュニティ（保育の窓）
- 絵本の紹介/福音館書店
- 教員養成校訪問/常葉大学短期大学部
- 健康随想/子育て支援カウンセラー 福永稔子

こどもがまんなかPROJECT
只今全国展開中

NO.171
2014⑦
Summer

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の第62回定時総会が、5月27日(火)ホテルセンチュリー静岡で119名の会員が出席し、静岡県文化・観光部長伊藤秀治様、同文化学術局長後藤淳様、私学振興課長長岡稔様をお迎えして盛大に開催されました。

総会は、相田芳久理事長の任期6年を振り返りつつ、様々な課題に真剣に取り組む決意をこめた挨拶で始まりました。

引き続き、教育振興に多大な功績を残されている方々への表彰に移り、県文化・観光部長伊藤秀治様からは私立学校教育振興功労知事表彰状が、また相田理事長からは理事長・設置者、園長永年勤続表彰状が授与されると、受賞者の功績に会場から盛大な拍手が送られました。

この後、県知事のお祝辞を県文化・観光部長伊藤秀治様が代読され、総会は議事に入りました。

議長となった相田理事長の進行で議事は進み、第1号議案「平成25年度事業報告及び財務状況報告について」、第2号議案「一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の定款の一部変更について」、第3号議案「役員の選任について」が原案通り満場一致で可決されました。

■相田芳久理事長の挨拶

今日は、県下各地からお忙しい中御参集くださり、大変ありがとうございます。また日頃よりご理解・ご支援賜り感謝申し上げます。

今総会で任期いっぱいとなり2年を終了しました。私はもう3期6年目となりました。そろそろお暇しなければと思っておりますが、任期中重要事項がたくさん生まれました。「子ども・子育て新制度」「東日本大震災後の災害対策本部の立ち上げ」「一般社団法人への移行」「免許更新制度」等です。

一般社団法人への移行は無事に終え、1年経過し順調に滑り出しました。子ども・子育て新制度については、認定こども園の増加が予想される中、更なる幼児教育の充実が大切です。この制度への対応は大きな課題ですが、全ての子ども達の豊かな育ちのために、良い環境と良い教育を保証することが何より重要です。子ども達のために、サービスの在り方をしっかりと議論できたらと思います。私立幼稚園がプライドと実績を捨てることなく私立幼稚園の在り方を誇れるように協会一丸となって支援していきたいと思います。

最後に、本日表彰を受けられた方々に敬意を表します。これからもお元気で幼児教育の発展のために真摯な協力をお願いして挨拶といたします。

■川勝平太静岡県知事の祝辞

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会第62回定時総会の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

本日は、多数の皆様の御出席のもと、このように盛大に総会が開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

本県の幼児教育が今日のように充実、発展を遂げましたのも、私立幼稚園振興協会の役員の皆様をはじめ、多くの関係の皆様方の情熱とたゆまぬ御努力の賜物と、ここに敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

また、永年にわたる私立幼稚園教育の発展に対する御尽力並びにその御功績により、本日、栄えある表彰を受けられました皆様方には、心からお祝い申し上げますとともに、なお一層の御活躍を御期待申し上げる次第であります。

さて、本県では、昨年、世界遺産となりました富士山のように日本一高い志をもって、「富国有徳の理想郷〝ふじのくに〟づくり」に取り組んでおります。

とりわけ、ふじのくにの礎は人材育成にありますことから、心と身体の調和した人間形成の基礎を築く幼児期の環境づくりに努めております。

私立幼稚園におかれましては、これまでも自主性、独自性を生かした魅力ある幼稚園づくりや、教員の資質の向上を図るなど、幼児教育において大きな役割を担っていただいてまいりました。

来年4月から子ども・子育て支援新制度の実施が予定されていることから、各私立幼稚園では運営において大きな選択を行う、大変重要な時期を迎えています。

県といたしましては引き続き、私学教育の振興に努めてまいりますので、私立幼稚園におかれましても、幼児教育の充実になお一層、御尽力いただきますようお願い申し上げます。

結びにあたりまして、一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会並びに各私立幼稚園の益々の御発展と、御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成二十六年五月二十七日

静岡県知事　川勝平太

■平成26年度

私立学校教育振興功労知事表彰受賞者

百花幼稚園園長 **金田悟司**
(学)杉浦学園理事長
かきつばた幼稚園園長 **杉浦清美**
(学)青葉学園理事長
青葉幼稚園園長 **松下知弘**
かえで幼稚園園長 **宮澤ひろ子**
みなみ幼稚園園長 **山﨑元則**　(50音順)

永年勤続表彰受賞者(理事長・設置者、園長)

●勤続50年以上
(学)法林寺学園 **吉澤正道**
(学)天然寺学園理事長 **泉昭雄**

●勤続40年以上
(学)中央学園 中央幼稚園 **佐藤羊子**

●勤続30年以上
(学)榛原学園理事長 川崎幼稚園園長 **増田立義**
(学)島田中央学園理事長 島田中央幼稚園園長 **五藤泰弘**
(学)昭英学園理事長
榛原ふたば幼稚園園長 **増田昭夫**
(学)法城学園理事長こばと幼稚園園長 **稲葉俊英**
(学)足立学園理事長
リーチェル幼稚園園長 **足立一教**

●勤続20年以上
(学)大里東学園 大里東幼稚園園長 **望月雅世**

●勤続10年以上
(学)松城幼稚園理事長 **加茂由彦**
(学)松城幼稚園 松城幼稚園園長 **三輪信子**
(学)気賀学園 **笛田義孝**
(学)沼津学園 沼津学園第一幼稚園・沼津学園第二幼稚園園長 **薩川敏子**
(学)藤岡学園 西益津幼稚園園長 **大場明宏**

私立幼稚園の今後は…？

（一社）静岡県私立幼稚園振興協会
理事長　相田 芳久

理事長職を拝命してから早くも6年が過ぎてしまいました。この度、さらに2年間の継続をするようにとのご推挙をいただき、力不足ではありますが会員の皆さんのご支援とご協力を仰ぎ、その職責を果たしてまいりたいと考えております。

この6年間を振り返ってみると様々な課題が降りかかってきた年月であったような気がします。未曾有の被害を出した東日本大震災の発生は、東南海地震の危険性が早くから叫ばれていた本県にとっては大変切実な問題でした。今まである程度の備えの意識はあったものの、あまりにもすさまじい自然の脅威を見せつけられ、否が応にも災害対策の一層の強化を図る必要を痛感しました。早速に現地調査を進め、今後の課題の洗い出しを行って対応を検討したところです。

また、教員免許更新制に対応するための更新講習の企画・充実を急務と捉え、㈶全日本私立幼稚園幼児教育研究機構とタイアップして県内においての選択科目の履修環境整備を行いました。この研修事業も定着し、今後は認定こども園の増加や保育所保育士の増加に伴う内外の需要を取り込む努力が求められてまいります。

新公益法人改革制度への対応については平成25年度より現在の一般社団法人への移行を完了しました。大変精力的にご協力いただいた先生方や事務局職員に深く感謝申し上げる次第です。ようやくこの組織が動き始めたのも束の間、現在の懸案となっている「子ども・子育て支援新制度」への対応を余儀なくされる事態となりました。それぞれの幼稚園の在り方が変わっていけば、その集合体である協会組織の在り方や役割も変化せざるを得ないということになります。

まさに息つく暇もなく、次から次へと新しい課題に直面する中で、以前にも増して〝私立幼稚園の今後はどうなっていくのだろう…〟と思いを廻らせることが本当に多くなってきたような気がしています。

さて、皆さんが毎日子ども達と精一杯の思いを込めて生活している幼稚園が場合によってはその在り方を変えていかねばならないという選択の時期が刻々と近づいてまいります。この号がお手元に届く頃には国から示された施設型給付の公定価格をもとに、各市町での価格設定が話し合われていることでしょう。それに合わせて「認定こども園」や「施設型給付幼稚園」に移行する園もあるものと思います。

そもそも制度設計の基本思想は「すべての子どもが等しく質の高い幼児教育を受ける」というところにありますが、雇用労働政策に呑み込まれると〝質よりも量〟を、そして〝教育・保育に対する責任よりもサービス〟に重点が置かれる仕組みは以前の厚労省行政と少しも変わりません。私たち私立幼稚園はサービスそのものを否定するわけではありませんが、それが妥当なものかどうかの判断はしっかりとしてほしいということを何年も訴え続けてきました。大人の法定労働時間が一日8時間なのに乳幼児が11時間まで「保育標準時間」として預けられる日本。「保育短時間」として月48～64時間までのパート就労者が、希望があれば例外なく一日8時間、週5日間子どもを預けることができる日本。しかも保育標準時間利用者は8時間の部分に3時間の送迎用無料サービス保育付きと至れり尽くせり。どこまでも就労支援のための施策ですが、その恩恵を受ける幼児は全体のせいぜい3割で、7割の子どもは幼稚園か、入園前の在宅なのですから、「すべての子どもが等しく～」などというスローガンが単なるお題目に過ぎないことがよくわかります。また施設型給付幼稚園になったとしても、公立幼稚園や保育所と同じ条件で給付を受けることはほぼ不可能で、依然として格差が残ることも釈然としません。

今後、どのような選択をしようとも、私たちは私立幼稚園としての実績と誇りをもち、行政や社会に対してしっかりとものを言う姿勢をなくしてはなりません。そして先頭に立つのは現場で子ども達の育ちを支える教職員の皆さんに他ならないのです。いかに幼児教育が大切か、家庭教育が大切か、生活環境が大切かを実践と理論をもって伝え続けてほしいと願います。

本協会としても皆さんのキャリアアップをしっかりと支援する体制を整えるとともに、社会に向けてのPRも積極的に行っていきたいと考えています。今期も皆さんとともに子ども達や保護者の皆さんの真の笑顔のためにがんばってまいりますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

平成26年度 三役・常置委員長・地区長の御紹介

●三役
理事長 相田芳久 焼津豊田
副理事長 千葉一道 八坂
〃 森俊彦 河輪
〃 田中邦昌 みのる認定こども園
〃 大石和正 静岡聖光

●顧問
顧問 宮下ちづ子 静岡豊田

●常置委員長
企画委員長 小林直樹 富士中央
研修委員長 宮下友美恵 静岡豊田
広報委員長 座光寺明 龍の子
経営委員長 五藤泰弘 島田中央
地域向上委員長 藤田道信 藤田

●地区長
駿豆 山本環 しらゆり
沼津 鶴谷主一 原町
富士 草分由子 曙
富士宮 足立一教 リーチェル
清水 千葉一道 八坂
静岡 宮下友美恵 静岡豊田
焼津 吉田一夫 焼津中央
藤枝 鈴木舜光 稲葉
島田・榛南 増田昭夫 榛原ふたば
遠州 白井祐子 しらゆりこども園幼稚園部
浜松 水野明 ひくま

委員長抱負を語る▼▼▼

企画委員会

委員長 小林直樹

今期の企画委員会、新規事業として開催する研修会は、単年度での実施を原則とし、幼稚園運営における今日的課題をジャンルに縛られずにとりあげていきます。

まずは6月に、常に安定した教職員の確保を目的とした「採用・勤続支援研修会」を実施。法務面をもおさえた、募集から就職までの理想的な流れとは、そして長く勤められる職場をつくるために必要なこととは。各々の専門家を招き、現在の学生気質にも深く触れながら学ぶ研修会です。

続いて8月には静岡県医師会の協力を全面的に得て、アナフィラキシーショックが起きた際の自己注射薬「エピペン」をとりあげます。今後、幼稚園でも対応を望まれていくことが十分に予想されるエピペン。アレルギーの基礎から、アナフィラキシーショックが生じた場合のエピペンの使用法についてまで、実技を含めた「園児ケア研修会」として実施します。この他の新規・継続諸事業はもちろんのこと、今後の課題に対しても委員8名で調査研究を行いながら、その成果を将来の事業に反映させていきたいと思います。

また、子ども・子育て関連3法対策検討部会においては、積極的な情報収集、対応・対策等を検討するとともに、会員へ的確な情報を引き続き提供していく予定です。さらに乳幼児の保育並びに幼児教育に関わる3団体（静岡県私立幼稚園振興協会・静岡県公立幼稚園教育研究会・静岡県保育所連合会）からなる幼児保育研究会では、国・県・市町の動向に関しての情報交換、相互連携をはかっていきたいと思います。以上、よろしくお願いします。

研修委員会

委員長 宮下友美恵

平成26年度の研修委員会が新しい委員構成でスタートしました。委員会スタートと同時に、16名の研修委員は初任者研修会の運営や夏期開催研修会の準備にと、はりきって取り組んでいます。現在、私たち幼稚園教育の世界は、子ども・子育て支援新制度という大きな渦の中にあり、これから自分たちが進むべき道をしっかりと選択していかなければならない時に来ています。このような時だからこそ、私たちは子どもたちの健やかな成長のために、幼児教育の質の向上をめざして、主体的に学んでいかなければならないと思います。そのような学びの場を企画、運営していく研修委員会の仕事は、責任の重い仕事ですが、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

平成26・27年度全日私幼の教育研究課題の主題は「子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきずく」です。どのような時代であっても、子どもたちは『今』このときを精一杯生きています。私たち保育者はその子どもたちの『未来』を信じ、祈りながら、子どもたちの『今』を全力で支えています。幼児教育のプロとしての責任と誇りをもって子どもたちと共に生きる先生方にとって、自分の資質を高めると共に、教育することの喜びを感じることができるような研修会にしたいと思っています。また、しばらく休止していた海外研修が今年度から再開します。充実した研修が行われ、その成果が子どもたちや周りの先生方に広がるよう、委員会としても一生懸命準備を進めていきたいと思っています。皆様のご理解、ご協力をいただきながら、研修委員全員で力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。

広報委員会・HP小委員会

委員長 座光寺明

今期の広報委員会ならびにホームページ小委員会を担当させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

私立幼稚園の良さを多くの方にPRすると共に若い子育て世帯の支援が出来るような広報活動を目指していきたいと考えています。

広報誌「静私幼だより」は活動報告だけでなく、思わず微笑んでしまうような保育現場のナイスショット写真や教職員の皆様の率直な思いも数多く掲載したいと考えています。昨年3月号で年間のベストショット写真を募集したところ多くの幼稚園からたくさんの写真を提供していただきました。どの写真もいきいきした園児の表情がとてもステキでした。これからも毎年学年末に年間ベストショットのページを設けたいと思いますので、ナイスショット写真はストックしておいて下さい。また関心の高い「こども園」にも積極的に訪問し、情報を提供したいと思います。また教員養成校を訪ねて、学生さんや養成校の先生方と直にお話をして連携を太くすることで学生さんの私立幼稚園志向を高めていくことが出来たらと考えます。

いよいよ施行される「子ども・子育て新システム」についてなどの目まぐるしく変化する情報も出来るだけ早く「情報エキスプレス」で提供していきたいと思います。

ホームページは協会内の催しや各地区でのイベント情報、イベントの様子を掲示して私立幼稚園子育て支援を広報します。また「園長リレーメッセージ」は各園長先生の想いが伝わると好評ですので、今後も継続していく予定です。

「静私幼だより」「幼稚園振興協会ホームページ」へのご希望がありましたなら、どんなことでもお申し出下さい。幼稚園振興協会会員の皆様だけでなく、子育てに関わるすべての方々に喜んでいただけるよう広報委員会活動をするつもりですので、どうぞよろしくお願い致します。

経営委員会・IT小委員会

委員長
五藤泰弘

引き続き経営委員会並びにIT小委員会を担当させて頂く事になりました。よろしくお願い致します。平成27年度からの子ども子育て新システムの施行、学校法人会計の改正等、幼児教育環境が大きく変化しつつある中で、地域における幼児教育機関としての私立幼稚園がその役割と責任を果たし信頼される法人として発展していく為に、理事長・設置者・園長研修を開催し教育、経営に関する研修の場を提供していきます。

また、将来のリーダーとして活躍が期待される若い人材を対象に、次世代育成の研修をさらに力を入れて展開してまいります。

IT小委員会では、事務担当者を対象に学校法人会計セミナー、財務会計システム、給与システムセミナー等の開催、そしてクラス担任を対象としたIT研修もさらに充実した研修になるよう取り組んでいきたいと思います。

地域向上委員会・地震及び安全管理小委員会

委員長
藤田道信

子ども・子育て支援新制度がいよいよ具体化し、その概要が示されてきました。また各市町では子ども子育て会議も回を重ねています。しかし私はどうしてもこの制度にあたり理想とする幼稚園像が脳裏に描けませんでした。

誰の為の制度なのか、何の為の制度なのか知れば知るほどその闇が広がります。そんな時、本学の創始者が『園児一人になっても幼稚園を続けなさい。』と事あるごとに話されていた言葉を思い出しました。そして検めて建学の精神を再認識し、加えて目の前の子ども達の幸福と未来に対する責任、家庭と地域の最良の利益の為に何ができるかを再考する機会になり、進む道への決意が固まりました。

各園に於かれましてもその答えは千差万別でありましょう。しかし、それが私立幼稚園であったはずです。そしてその仲間が介する静岡県私立幼稚園振興協会は、幼児教育の振興、就学教育との連結、子育て支援の充実家庭や地域との連携、安全教育の推進、地域コミュニティーの発展など、さまざまな分野で長年の実績を積み重ねてきました。まさに地域社会の幼児教育と子育ての先覚を務めてきました。

地域向上委員会ではその自負のもと、ますますの幼児教育環境・家庭教育環境・子育て環境の充実発展を目指し、各地区に置いて事業を展開してまいります。また同委員会傘下である地震及び安全管理小委員会では、協会園の危機管理機能の向上に貢献するため、自然災害、複雑化する事件事故・環境問題、社会モラルにいたるまで、その情報を収集精査し発信してまいります。また、その事によって地域社会の安全安心な町づくりへも寄与できればと願っています。

委員会事業において、皆様には多くのご理解とご協力をお願いする事があろうかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

おやこんぼ

おやこんぼ推進プロジェクト通信

先日新聞やテレビでも取り上げられていましたが、２０１４年現在の日本の人口が１億２７００万人。それが約50年後の２０６０年には８７００万人に減少するであろうと政府が発表したそうです。その人口では残念ながら日本は労働力が足りず、経済成長も停滞、社会保障の充実なんてほぼ無理とのことです。

では政府はどんな対策をとっているのでしょうか?なんとその対策が「女性が労働できる環境作り」だということらしいです。現在の出生率は平均一・四人。この率を上げるためには①家庭の収入をあげることと、②出産しても働きながら育てることができることの二つが重要だと判断されているようです。

幼児とその家庭に日々携わっている皆さんはそう思われますか?本当にそれで子ども達が増えていくのでしょうか?

親子の関わる時間がどんどん少なくなっていって「自分も家庭を作りたい」「子どもを生んで育てたい」と思うのでしょうか?

「おやこんぼ」は家庭作りの基礎となる、親と子の気持ちを育てる大切な活動なのです。いくら器を用意しても、内面が「子どもを授かり育てたい」という気持ちになっていなければ決して子どもは増えません。例えば、熱が出たりお腹が痛くなったときに、お母さんに傍にいてもらって優しく看病してもらったり、食べやすいものをもらった記憶がある子どもと、お母さんは仕事なので預かっている施設のベッドで寂しい思いをしながら横になり、お迎えをずっと待つ記憶のどちらが大人になった時に、自分もそうしたいと思うでしょうか?高校生ぐらいの我慢できる年齢ならともかく幼児期には家族の関わりが大切であることは誰もがわかっているはずです。

私たち幼稚園は子どもがいなければ成り立ちません。つまり私たちは子どもが生まれ育つ環境作りを率先して行わなければならない立場であると思います。そのアクションを「おやこんぼ」という活動を通して起こしていきたいと静岡県私立幼稚園協会の皆さんにお願いしています。このまま少子化で子どもが減り人口が減っていくのをみんなで指をくわえてみているだけでは幼稚園の存続は確実に不可能となります。世の中の流れをみんなで変えて行きましょう。

先日「私幼時報」の２０１４年６月号に「おやこんぼ」の記事を掲載させていただいたところ、他県からの反応があり、市全体で実践していきたいという意向で話を進めておられるようです。大変嬉しいことで、このように少しずつ日本全体に広がり、親と子の深い絆を私たちが作っていくことで、私たちの国が再び盛り上がれるようにできたら素晴らしいと思います。全国に広がる前にぜひ静岡県での活発な活動をしていければと思います。

まずは各園のできることから「おやこんぼ」を実践してみて下さい。それぞれの言葉でそれぞれの活動で親子の絆の大切さを各家庭に広めていくこと、それを静私幼全体の「おやこんぼ」という位置づけで社会にアピールしていける形としていければ良いと思います。

おやこんぼ事業報告

親子のかかわりを強くする為に静岡県私立幼稚園で実践されている「おやこんぼ」。今回は掛川市の掛川こども園幼稚園部の園長、中村千里先生に園の取り組み方を聞きました。

●いつから「おやこんぼ」を実践していますか？

平成21年度から「ノーテレビデー」としてはじめました。24年度からは名称を変え「おやこんぼ」として取り組んでいます。

●「おやこんぼ」導入の理由はどのような点ですか？

高山静子先生（当時は浜松学院大教授）の話を聞いたことがきっかけとなり、子どものために取り入れた方がいいと考えました。

●取り組みはじめの家庭の反応はどうでしたか？

最初は趣旨を理解してもらうのがたいへんでしたが、おたよりや資料を提供し、懇談会などでも話をしたことにより、徐々に理解してもらえるようになりました。

●どのような形式で実践されていますか？

現在は、メディアのことや親子で遊べることなどを書いたおたよりと、おやこんぼの日に親子でアウトメディアにチャレンジしようと題したおたよりの2枚を出し、親子で話し合いチャレンジするコース（▽かめさんコース＝食事中はテレビ・ビデオを消す▽とりさんコース＝テレビ・ビデオ・ゲームの時間は一日2時間までにする▽うさぎさんコース＝一日まったくテレビ・ビデオは見ない。ゲームもしない）を決めてもらっています。

●先生たちの反応はどうでしたか？

子どもたちにテレビやゲームについての話を積極的にするようになりました。

●園独自の取り組み方はありますか？

昨年はテレビにかけるバンダナを子どもたち自身が絵を描いて手作りしました。また、月刊絵本を、おやこんぼの日に合わせて配布しています。おたよりに保護者からの感想や意見を書く欄を設けており、提出してくれたものにはすべて返事を書くようにして、保護者との連携を深めています。

●「おやこんぼ」で気をつけていることはありますか？

▼テレビ・ゲームを見ない・やらないではなく、子どもが自主的にどうしたいかと考えて行動できるようにしていく

▼親子で一緒に遊ぶ時間をつくる

●継続してみて、家庭の状況はどうですか？

毎月15日は「おやこんぼ」ということが定着してきています。また、親子で話し合いをしてどのようにチャレンジするか決めるようになってきています。

●「おやこんぼ」を実践してみて、園長先生の感想をお聞かせください。

継続は力だな、と思います。テレビやゲームを悪者とするわけではなく、どう関わっていくかを親子で話し合って決めることが大切だと考えています。毎月返ってくる感想を読んでいると、おやこんぼの日をどうやって過ごそうか、というさまざまな親子の姿が見えます。「父親がこの日は早く帰ってきてくれるようになった」「親子の会話が増えた」「会話のあふれる食事がこんなに楽しいものだったなんて」「子どもも親も、早く寝るようになった」「テレビを必要としていたのは親の方だった」など、こちらが考えている以上の声があふれます。その感想を次号のおたよりで紹介すると、「へ～おもしろそう。うちでもやってみよう」と、その輪が広がっていきます。私たちはきっかけを与えるだけ、あとは各家庭が楽しんで取り組んでくれているのが、うれしいですね。

特集

親と子の心を育てる幼児教育 2

キャリア教育の視点から

島根大学理事・副学長
肥後功一

リハビリテーション病院や国立特殊教育総合研究所に勤務の後、島根大学教育学部講師、助教授、心理・発達臨床講座教授を経て現職

専門分野 / 教育臨床心理学・発達臨床心理学
研究テーマ / 教育（保育）におけるコミュニケーションとその障害，心理臨床相談・教育相談・発達相談の理論と方法，家庭における子どもの育ちと“ことば”の問題

大学・大学院での主な担当授業科目 /
教育臨床心理学概説、障がい児者臨床心理学特論、臨床心理査定演習など

所属学会 / 日本心理臨床学会・日本発達心理学会・日本特殊教育学会

1 なぜ今「幼児期からのキャリア教育」なのか？

「キャリア教育」ということばをご存知でしょうか。このところ国の教育施策の重要な柱になっているので耳にしたことがある方も多いでしょう。キャリア教育とは職業に就くための教育のことではありません。もちろんそれも含みながらですが、もっと広く、自分らしい生き方を追求する主体的な学習・経験を積み上げていくプロセス全体を意味するものとして使われています。文部科学省のホームページには次のように書かれています。『今、子ども達には、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育の実践の姿です』

具体的には高校での進路指導や中学での職場体験などを思い浮かべる方が多いでしょう。しかし最近では、幼児期から段階的かつ体系的にキャリア教育への取組みを進める必要があると言われています。その考え方をまとめたものが平成23年1月に中央教育審議会から出された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」です。その第2章「発達の段階に応じた体系的なキャリア教育」では『幼児期の教育においては、計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ねるように、一人ひとりに応じた総合的な指導を通して、自発的・主体的な活動を促進することが必要である』と書かれています。

今、こんなふうに幼児期からのキャリア教育が求められている背景には、現代の若者の進路選択に対する目的意識の低さ、コミュニケーション能力をはじめとする職業人としての基本的能力の低さ、職業意識・職業観の未熟さなど、その社会的・職業的自立への大きな危機感があります。実際に平成24年度の大卒者56万人のうち約3万人が、就職も進学もせず、その準備もしていないとみられる若年無業者（いわゆるニート）でした。さらに非正規雇用など安定的な職に就いていない者を含めると、実に大卒者の5

人に一人が、社会人として自立するための第一歩に課題を抱えていることが明らかになっています。もちろんこれは若者の側のせいだけではなくブラック企業などという語をみなさんもご存知でしょうが、社会・経済的な情勢や雇用する側の問題も大きいところです。しかしこれだけの状況になってしまうには、やはり学校生活の時代に何らかの問題の萌芽があると考えるべきでしょう。

2 幼児教育がめざすべき自発性・主体性

「アンパンマンのマーチ」の歌詞ではありませんが、「何のために学校に行き、何のために学ぶのか」―学校での生活や学びに対する目的意識が希薄であること、何事にもやる気が持てないこと、生活習慣や学習習慣が形成されないことそれらに起因する学力の低下などが指摘されているところです。こうした小学校以降の学校生活に接続するために幼稚園に求められるキャリア教育、それは上述の中教審答申にあるように「自発的・主体的な活動を促進する」ことです。大人が決めたプログラムの上で子どもを楽しく活動させることは、それほど難しいことではありません。よくデザインされたプログラムが少なからず存在する今日、それらはたしかに子どもの挑戦する気持ちや能力を上手に引き出し刺激するものですし、その様子を見ていると、子どもは本当にいきいきと楽しそうに活動しています。つまりそのような「自発性・主体性」も、けっして偽物だというわけではありません。

しかし本来の幼児教育が目指すべき「自発性・主体性」は、あくまで子どもの自由な欲求・興味・関心に基づく、遊びを中心とした生活自体の中から導かれるべきものであり、それを育む保育・教育技術は、決められたプログラムを実行することよりも、はるかに難しく高度な内容を含むもので、多くの経験と試行錯誤、そして深い思考を要求されるものです。それぞれの子どもの発達に応じて、その子らしい外界の事物・事象あるいは人との自由な出会い・関わりを見守り支援し、より積極的にこの世界に導かれ開かれていこうとする意欲を育むこと。さらに、個々の子どもの個性的な世界の探索を相互に紡ぎ合わせ共有することを通じて、仲間との協同の楽しさや大切さ、あるいは葛藤の経験を蓄積していくこと。それが幼児期のキャリア教育、すなわち自発性・主体性を育てることの中身です。少し乱暴に要約するなら、その子らしくいきいきと日々の生活に向かう「意欲（生きる力）」を育てるということに尽きるでしょう。

人によって外から与えられた枠組みの中で自発性・主体性を発揮するのではなく、自分の内から湧き出る意欲をエネルギーとして、日々の生活を自分らしく充実させていこうとする姿を伸ばし育てていくことが幼児教育の根幹です。それこそが後の自発的・主体的な「学び」の土台を形成するものであり、今、キャリア教育の文脈の中で、いっそう求められていることでもあるのです。次回はこの「意欲を引き出す」ということについて、もう少し深くアプローチしてみましょう。

個々と向き合う

掛川中央幼保園　増田 夢子

4月から長年の夢であった幼稚園教諭として働き出し、約一ヵ月半が経ちました。思い返すと本当にあっという間で、同時にとても濃い一ヵ月半であったと思います。

はじめの一ヵ月、私は年少のクラスにチームとして入ることになりました。どんな子どもがいるのかというわくわくした気持ちの中に、子ども達との信頼関係を築いていけるのか、という不安もありました。登園初日、保育室の中は泣き声の大合唱。一人の子が泣くと他の子も泣き出し、私は両手に子どもを抱え、ただあやすことしかできませんでした。泣いている子への対応や声かけの仕方、自分は今、何をすべきなのかがわからず、戸惑うことばかりでした。全体をまとめることばかりに気を取られ、子ども一人ひとりと向き合うことができていなかったように思います。そのことに気付いてから、全体としてではなく、子ども個々と向き合い、かかわっていけるよう自分の中で意識するようにしました。個々と向き合うことで、一人ひとりの小さな変化を知ることができ、子どもの意外な一面にも気付けるようになるのだとわかりました。昨日まで泣いてばかりいた子が今日は泣いていなかったり、4月保育者から離れられなかった子が、友達と手をつないで仲良く遊んでいたり…。日々の中で、子ども達のたくさんの成長を感じることができます。

幼稚園教諭は子どもの成長を間近で見ることのできる、やりがいのある仕事です。それと同時に、子どもの命を預かり、保護者のもとへと安全に返す、大きな責任を伴う仕事でもあります。その責任を重く受け止め、日々保育に励んでいきたいです。

まだまだ失敗ばかりの毎日で、悩んだり、困ったりすることもありますが、先輩の先生や子ども達から多くのことを学んでいけるよう、頑張っていきたいです。

新任エピソード

静岡サレジオ幼稚園　神川 慶

憧れの幼稚園教諭になり、いよいよ今年の4月から年中組の担任としてスタートすることになりました。昨年は副担任ではありましたが、その1年間の経験がとても大きく気持ちも一新、はつらつとした思いで子ども達や保護者と共になだらかなスタートとなったように思います。

幼稚園生活は子どもと関わりの中で学ぶことが多く、忙しいながらも喜びを感じ充実した毎日を送っています。子ども達の昨年の様子から、友だちとの関わりをとってみても、少しずつではありますが広がっていたり、密になっている部分が見られ、微笑ましくなることがよくあります。年中になると少しずつ自分のことは自分でやる、友達や年少児に優しくしてあげるような姿もよく見られます。一方で自分の主張をすることが多くなりいさかいが増えるようにもなりましたが、その中で学んでいる姿は年少の時とは違う成長が傍で見られ、私自身のやる気や頑張りにつながっています。一緒に遊ぶと、また違った子どもの可愛さも見えて喜びを感じます。

しかし、反面では担任として緊張や不安、戸惑いを感じることがあります。

心配事も出てきて、自分の保育は果たしてこれで大丈夫なのだろうか、未だに友達との関わりが少ない園児にどのように友達と関わりが持てるか、保護者対応は満足にできているか、挙げだしたらきりがないほどです。しかし、子ども達からは新任でもベテランの先生方と同じように見られるため、常に毅然とした態度で臨まなければなりません。

その中でもベテランの先生方に聞くことで、その不安を解消出来るこの環境にとても感謝しています。私が失敗をした際にもフォローをして頂いたり、些細なことでも丁寧に教えて頂けるだけで不安が取り除けています。

今後は、私が学んだことを生かす2年目を過ごし、更に良い保育をしていけるよう、どのようなことでも日々吸収していきたいと思います。そのためにも今いる子ども達との信頼関係を築けるよう、まずはその子一人ひとりの良いところを見つけ、楽しい幼稚園となるように携わっていきたいと思います。

共に成長

西町幼稚園　日置千絵実

幼稚園教諭となり今年で8年目になります。幼稚園教諭になりたかった理由は、私が幼稚園でおもらしをして困って何も言えず泣いていたとき、担任の先生が「どうしたの？可愛いパンツに変えようね」と優しく声を掛けてくれたことがとっても嬉しく心に残り、「私もこの先生みたいに心に残る保育者になりたい」と思ったからです。

母園に就職が決まり、年少組のクラス担任となり、不安はあったけれど毎日が新鮮でした。しかし、だんだん自分の理想とはかけ離れた毎日。子ども達が引きつけられず自分の声が届いていなかったり、一人の子に係わっていると別の子がクラスから出て行ってしまったり、計画を立てているのに思い通りに行かなかったり。また、先輩の先生方や保護者から「あのクラスだけ落ちつかないね」「声掛けがヘタ」と思われているのではないかと、周りの評価を気にして自信が全く無くなり、憂鬱な毎日が続きました。そんなとき、先輩の先生が「日置先生、顔がこわばってるよ。リラックス、リラックス」と声を掛けてくださり、自分の気持ちが表情に表れていたことにハッとしました。

今年度、私は新任（4名）の職員と一緒に年少組を受け持ち、その中で指導的役割にいます。初めが肝心、先生達が困らないように「こうすればこうなる、だからこうした方がいい」と細かく丁寧に指導していました。あるとき園長先生が新任の先生達に「初めからうまくいく人はいないから、命にかかわること以外はたくさん失敗し、そこから学んでください」とおっしゃったことに私は驚きました。それを聞いてなぜか私自身がとても気持ちが楽になりました。なぜかなと自分を省みたとき、私は思い通りにいかないことを失敗・ダメと思い込んでいたことに気付きました。そういえば、私もたくさんの失敗を経験し分かったことがたくさんありました。

保育者としての自分の成長のためには、計画通りにいかない経験も必要なんだと改めて気付きました。「子ども達とこうやってみたい」という想いを大切にしながら、感じたこと、考えたこと、また、分からないことを何でも言葉にし、共に成長し合っていきたいと思います。そして、声を掛けてくれたことが本当に嬉しかったその想いを、今度は自分の役割として心掛けていきたいです。

前向きな気持ち

須津幼稚園　武田安希子

今年は、とても元気で笑顔のかわいい年中組を担任しています。毎日、一歩一歩成長していく子ども達の姿は、とても輝いて見えます。

憧れの幼稚園教諭になって、7年目を迎えました。振り返ると、新任の時に年少を担任していた私は、子ども達の前に出て話すだけで緊張してしまいました。個性豊かな子ども達をまとめることはとても難しく、副担任のベテランの先生に助けて頂くことばかりだったことを思い出します。保育の中で色々な失敗をする度に、先輩の先生方からアドバイスを頂きました。「こうすればいいんだ」「こう考えていくといいんだ」など多くの事を学んできました。私の気持ちが落ち込んでいると、先輩の先生方が温かく励ましてくれました。そして、子ども達の笑顔に何度も勇気をもらいました。その経験が、私を前向きな気持ちにさせてくれました。

今では、自分の気持ちに余裕が持てるようになり、子ども達の姿も以前よりよく見えるようになりました。子ども達に『がんばったね』『ありがとう』『いいことしたね！』等と、その時の私の気持ちを素直に伝えると、子ども達は嬉しそうな笑顔を返してくれます。それが子ども達の成長につながっていくことを実感しています。前向きな気持ちが私を成長させ、前向きに子ども達に関わることが子ども達を成長させていることを、子ども達から教えてもらっています。

これからも、自分のことも子ども達のことも前向きな気持ちで見つめて一緒に成長していきたいと思います。

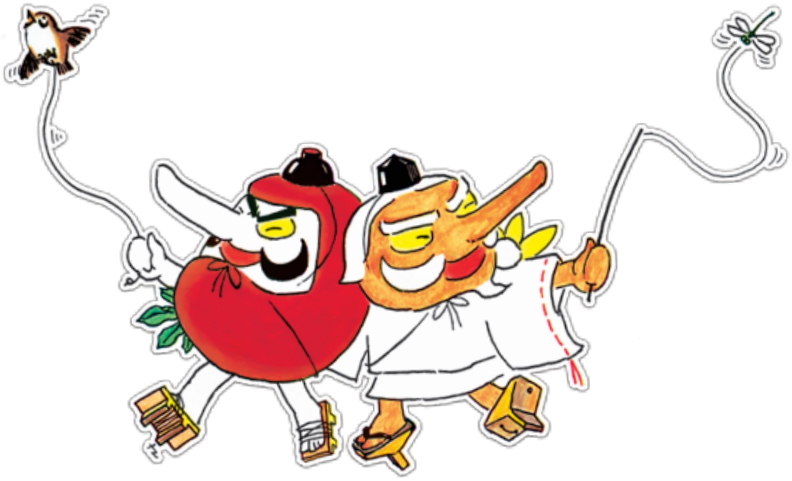
絵本を見る目

だるまちゃんの絵本

1967年に出版されてから、子どもたちに愛されて続けている「だるまちゃん」シリーズ。そのひみつに迫ります。

「だるまちゃん」は百年間、読まれますよ。ここには遊びの本質が描いてある。日本の子どもの遊びをこういう形で残してくださった方は、他にどなたもいらっしゃらないですね。

一松居 直（児童文学者・福音館書店相談役）
『絵本作家のアトリエ1』（福音館書店刊）より



作者の加古里子さんは、一般企業に勤めながら、子どもたちに紙しばいなどを披露する活動をしていました。

子どもたちは、紙しばいの内容がつまらなければ他の遊びに興味がうつってしまいます。子どもたちの厳しい「批評」にさらされることは、子どもが本当に喜ぶものを生み出す力となりました。

この経験が、絵本作りに生かされることとなったのです。

加古さんは、日本にも美しいものがあることを子どもたちに伝えたいと、日本の郷土玩具をテーマとしたおはなしを考えました。そうしてできたのが、目立つ赤い色をした「だるまちゃん」です。

「だるまちゃん」には、ともだちがたくさん！ それぞれの本で、ともだちと一緒に遊びます。

おはなしとしての楽しさはもちろん、伝承遊びを長年研究している加古さんならではの視点で、いきいきと「遊び」を描いているのです。

本を読んでいる子どもたちも遊べるように、遊び方を紹介する作品もあります。

▲『だるまちゃんとうさぎちゃん』より

六月には、新刊『だるまちゃんとやまんめちゃん』が出版されるほか、月刊絵本「こどものとも」七〇〇号記念作品として、七月号に『だるまちゃんとにおうちゃん』も登場！

一九六七年の刊行以来、子どもたちをひきつけてやまない「だるまちゃん」の絵本シリーズ、ぜひ一度読んでみてくださいね。

だるまちゃんの絵本シリーズ　加古里子　作・絵

各定価（本体 800 円＋税）

『だるまちゃんとてんぐちゃん』

『だるまちゃんとかみなりちゃん』

『だるまちゃんとうさぎちゃん』

『だるまちゃんととらのこちゃん』

『だるまちゃんとだいこくちゃん』

『だるまちゃんとてんじんちゃん』

新刊

『だるまちゃんとやまんめちゃん』

こどものとも 2014 年 7 月号は
『だるまちゃんとにおうちゃん』
とんとんずもうの
ふろくつき！

月刊絵本

『だるまちゃんとにおうちゃん』
こどものとも 2014 年 7 月号
定価（本体 389 円＋税）

福音館書店 TEL 03-3942-2041　http://www.fukuinkan.co.jp/　Illustrations ©Kako Research Institute Ltd. 1967-2014

最高の思い出を！

横内幼稚園
木の芽会会長　大成　直人

私には小学5年生の娘と年長の息子がいます。

娘が保育園にいる時は時間にも余裕があり、行事に参加できていたのですが、息子が横内幼稚園に入園する少し前から仕事が忙しくなり、入園式に出席できず、様々な行事にも参加できなかったため、息子には色々と我慢させたかな？と思う時期が続きました。

そのような中で、息子が年長になる平成26年度、木の芽会の会長という大役を引き受けさせていただくこととなりました。

夏祭り以外、園の行事にほとんど参加できていなかったこと、園の先生の顔と名前がなかなか覚えられなかったこと(横内幼稚園の先生、ほんとにすみません)大阪から静岡に転勤してきて10年以上経つのに関西弁が抜けないことなど、本当に私で良いのだろうか？と正直不安もありましたが、息子のためにもと思い、また新役員の方々の後押しもあり、やってみようと決心しました。

やるからにはきっちりこなしたいと思い、まず始めに、年間スケージュールを確認したところ、木の芽会主催の行事が盛りだくさんでびっくりしました。

6月の運動会に始まり、7月のお泊り保育、9月の夏祭り、11月の大道芸、12月のクリスマス会、1月の餅つき大会、2月の雪遊びなど。

行事がある度に「大道芸のお兄さんとお姉さんが凄かった！」とか、「雪遊びで○○君と遊んだよ！」など息子が楽しそうに話してくれたので、自分では把握していたつもりでしたが、改めて整理することで、今までの役員の方々や園の先生方のご苦労がわかりました。

そして、新年度の役員打ち合せでは、なんとか園の行事を楽しく盛り上げていきたいという役員たちの強い気持ちが伝わってきました。自分自身も子ども達のため、園のためにできる限りのことをしていきたいという気持ちになってきた次第です。

自分自身がスキルアップできる環境を与えていただいたことに感謝し、また役員の皆さんと一緒になって力を合わせ、園児と園の先生が楽しく、最高の思い出を作れるよう頑張っていきたいと思います。

子どもと共に育つ

杉田幼稚園
ＰＴＡ会長　稲葉善亨

富士山が眼の前に広がる富士宮市の耕地4ヘクタールの畑に、毎年子ども達の「たくさんなっている」や「大きいお芋だ」などの大歓声が響きます。

10数年前のことになりますが、うちの農園に東京大学の学生が農業体験に来ました。高い建物ばかりで、地面のほとんどがコンクリートで、隣に住んでいるのがどんな人かも知らない人が多いところで生活し、土に触れることの少ない学生たちは、日常と違う環境で過ごす農業体験が何をするにも新鮮だったようです。

その時に私が驚いたのは、落花生が土の中で育っていることを知らなかったことでした。学生たちは、落花生が果物のように木の枝になっていると思ったようで、土から出る落花生に歓声をあげていました。そこで私は、食べなきゃ生きていけない人間が、食べている野菜の育ち方を知らない不自然さに落胆しました。と同時に、幼稚園の小さいときに、野菜の育つ過程を体験させていかなくてはならないと痛感しました。毎年、杉田幼稚園の子ども達は農業体験で芋掘りや落花生掘りを行っています。

自然の中でいろいろな体験や土に触れることで、子ども達に豊かな人間性を育むことと共に、緑が豊かな自然が「心のゆとり」を育てます。小学校へ入ると総合学習があり生活体験（農業）があるので、幼稚園からこのことを学ばせることが大事と思います。そんなご縁もあり、杉田幼稚園のＰＴＡ会長を引き受けさせていただいています。

さて、杉田幼稚園のＰＴＡ活動は、私たち保護者も幼稚園の一員として一人一役をやっております。その中でも、夏のイベント「すぎの子フェスタ」の『バザー』は、ＰＴＡの会員の皆様に協力を呼びかけるだけでなく、地域の皆様にも協力をお願いしています。お家に眠っている贈答品を持ってきていただいたり、当日「すぎの子フェスタ」を楽しみながらバザー用品を買っていただいてもらいます。「すぎの子フェスタ」の売上金を、園児の教育活動に還元していきます。バザーを開始した当初は、保護者だけで行っていたので販売品も集まらず大変でしたが、昨年より地域の方にもお願いして本当に助かっております。地域の方も楽しみにしているそうです。

このようにＰＴＡ活動を通して幼稚園に行く回数も増え、子ども達の笑顔にも触れ、また保護者同士の交流も深まります。子ども達はもちろん保護者にとっても楽しい園生活の場となっています。

教員養成校訪問

平成26年5月8日（水）、GWも終わり新緑のまぶしい頃、静岡市葵区瀬名にある常葉大学短期大学部を訪問いたしました。

当日は、同学から保育科教授の土屋廣人先生、鈴木久美子先生、また9名の学生が出席してくださり、協会からは県私幼広報委員会関係者5名と各広報委員の園で働いているフレッシュな同学の卒業生3名が同席しました。送り手・受け手、先輩・後輩の垣根を外し、和やかな雰囲気の中、忌憚のない意見交換と私立幼稚園の良さをPRさせていただきました。

初めに、学生及び卒業生全員に同学への入学の動機を伺いました。皆さん憧れの幼稚園や保育所で働くための「免許・資格が取得できる」という理由が前提の上で、オープンキャンパスや先生・先輩の推薦を通じ、「就職率が高い」「雰囲気が良い」「先生との距離感が近い」などのプラスイメージを抱き決断したことが分かりました。また、同席した県内市外（富士・富士宮・沼津市）の学生を含め全員が自宅から通っており、同学全体で約半数の学生が1～2時間かけて通学していました。その事実に少々驚きましたが、親元で早起きする等、規則正しい生活習慣を送ることは教員として不可欠なので、良い傾向にあると感じました。

次に、卒業生には現在働いている幼稚園に就職した理由を、学生には希望する就職先とその理由を伺いました。卒園生からは「実習が決めてとなった」「身近でよく知っている園であったから」などの回答がありました。学生からは、保育所は「複数担任だから」という意見がある一方、幼稚園で「一人担任をやってみたい」という積極的な発言もありました。しかし、まだ幼稚園か保育所か決めかねている学生が多く、今後も私立幼稚園業界として積極的・継続的なアプローチが必要であると思いました。また、学生から「実習では何を重視していますか」という質問に対し、「専門的知識やピアノ等の実技も大切であるが、それ以上に挨拶・礼儀などの『社会人としての常識やマナー』や、やる気・気づき・笑顔などの『人間性（力）』が重要である」「実習だからこそ失敗を恐れず、気軽な気持ちで自分が学んだことを出し切って欲しい」との助言がありました。

その後、先生同士の話し合いがあり、昨年度末の卒業生208名のうち、私立保育所への就職者が90名（43％）、私立幼稚園は62名（30％）と、同学においてもここ数年、保育所に就職する学生の数が幼稚園よりも多いことが分かりました。また、近年の動向として四年制大学志向（幼稚園教諭1種免許状取得）が強まっているが、2年間で資格・免許をとり、早く自分の夢を叶えたいと考える高校生は依然として多いことなどのお話を伺いました。

最後に、同学の訪問により改めて、私達幼稚園関係者は「将来の日本を担っていく未来ある子ども達の基礎教育機関である」という、その重要性と責任感を驕ることなく念頭に置くとともに、その熱い想いや私立幼稚園の良さ・素晴らしさを、養成校と連携を密にしながら積極的・継続的に学生達にアピールしていき、優れた人材確保に努めていかなければならないと感じました。そして、その情報発信は、私立幼稚園のみならず子ども・子育てを支えるあらゆる施設の充実・発展にも拍車がかかり、ひいては明るい日本の未来にも繋がるのではないかと考えます。

健康随想

3

心の健康を考える

子どものこころが観えますか

― 幼児期と思春期との関係 ―

子育て支援カウンセラー
（臨床心理士）
福永稔子

はじめに

私は、かつて臨床活動の中心を医療現場に置く傍ら、小・中・高等学校のスクールカウンセラーや子育てカウンセラー、そして平成19年度から始まった特別支援教育の専門家チームの委員などの仕事に携わってきました。これらの現場で見られる多くの子ども達は、潜在的に持っている能力と適性を発揮しながら心身ともに健康に育っています。しかし、一方では、保育や教育の場で不適応状態を示している子ども達、子育てに不安や悩みを抱えている保護者、そしてこれらの子どもや保護者と関わって苦慮している先生や保育者が増える傾向にあるのも事実です。このことは私の相談援助活動の中で実感していることです。

相談内容

相談内容は多岐にわたりますが、主に幼児期は「ことばの発達が遅い」「ことばを話せるが理解する力が弱い」「落ち着かない」「友達とうまく関われない」「すぐカーッとなって手が出る」「登園を渋る」といった相談などが多くみられます。児童期は「人とコミュニケーションをとるのが不得意」「友達からからかわれる、無視される」「不登校」「いじめ」「落ち着きがない」「不器用、動作が遅い」などです。そして思春期では、幼稚園や小学校までは表面上問題なく過してきた子どもの中に、「不登校」や「リストカット」「いじめの加害」「授業妨害」など不適応行動の相談が多くみられます。さらに高校になると「人との関わりがうまくできない」「学習、部活、進路」などの問題で自己評価を低くし自己存在感を実感できずに悩んでいる生徒の相談がみられます。

A君の場合

A君は中学2年生。中学1年生の2学期後半頃から授業や部活をボイコットする、提出物を出さない、友達とのトラブルが絶えない、ということで担任の先生に勧められてやってきました。事前に担任からA君について次のような話がありました。「家族は両親と弟の4人家族、父親は会社員、両親は教育熱心、本人の小学校時代は品行方正で成績も良かった、中学に入っても特に目立つことなく普通に学校生活を過していた、2年生になって徐々に目につく行動が増えてきた。その都度注意をしてきたが、改善がみられない。何か原因があるのではないか」と心配していました。

面接室に入ってきたA君は、やや緊張気味な表情で軽く頭を下げて椅子に座わりました。時々、私と合わせるA君の視線からは、不満と不全感とが感じられました。

数回の面接の中でA君は、小さい頃の話を始めました。「小さい頃はいつも弟が優先だった。小学校の時、母はいつも弟の試合の応援に行った。自分の試合には、一度もこなかった。弟のように親に認められたくて、反抗もせず自分なりに頑張ってきた」と話しました。また、「幼稚園の頃、自分が幼稚園に行っている間に、母と弟は二人で公園に遊びに行くかもしれない、二人で何処かへ行ってしまうかもしれないと思って、幼稚園に行くのを泣いて嫌がったことを覚えている」と話してくれました。そして「どうせ自分なんてどうなったっていいんだ！誰も心配する奴なんていないから！」と強い口調で怒りを表しました。

子どもの心の奥にあるもの

A君はこれまで抑圧してきた小さいときからの感情や不安、緊張などがストレスとなって自尊感情を低くし、行動化したものと考えられます。

子どもが心身ともに健康に育つためには、幼いころから自己存在感を実感する、良い自己評価を得る、そして自己価値観が形成されるような信頼できる大人との関わりが大事になってきます。これは特に、幼児期に「自分は大人から受け入れられている、認められている、たとえ失敗しても必ずバックアップしてくれる人がいる」というプラスの感情体験から生まれてくるのです。思春期の問題行動と幼児期の子どもの状態との因果関係を証明することはできません。しかし、プラスの感情体験を経験してきたことは、その後の子どもの成長発達に少なからず良い影響を与えることが考えられます。

おわりに

子どもを取り巻く私たち大人は、個々の子どもの思いや感情を受け止め、認め、寄り添っていくことが、子どもの心を育てるとともに、思春期の問題発生を予防することに繋がると私は考えます。

静私幼だより
NO.171
2014.07.15

ナイスショット

一生懸命渡ったよ

キャベツ、食べる？　“めえ～”

上手に跳び箱とべるかなぁ？

獲れたてきゅうりいただきま～す！

おだんご作るの　楽しいね♪

水浴びしちゃった　気持ちいいよ～♪

みんなで滑ると楽しいな

どっちが大きいかな～？

しっぺいと一緒にダンス！ダンス!!

蓮華も私たちも可愛いでしょう♥♥

【編集後記】　平成27年度にスタートする子ども･子育て新制度に向けて各幼稚園が「こども園」に移行するかどうかで悩まれていることと思います。

判断基準のひとつになる公定価格が示されましたが、まだまだ不確定な要素が多く判断を一層むずかしいものにしています。

「幼稚園建学の精神を貫くことが出来るか」「子どもにとって良い環境を確保出来るか」「園長･職員が前を向き、明日の園運営に向かうことが出来るか」が大切ではないかと思います。

広報委員長　座光寺　明

（表紙写真／みやじま幼稚園）

発行人／相田芳久
編集人／座光寺　明
広報委員会

発行所／静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820･FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創　レイアウト･イラスト／村松麗子

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。